

大阪万博工事は赤字必至

『週刊ダイヤモンド』10月1日の表題レポートを抜粋して紹介したい。

大阪・関西万博の主会場に関する建設工事の入札では、大手ゼネコンが勢ぞろいすることはなく、在阪の準大手・中堅が主導する共同企業体の姿もなかった。いったい何があったのか。

「君子は危うきに近寄らず」万博の主要会場となる3工区の建設工事の入札結果を見ながら、あるゼネコン首脳はつぶやいた。当初の予想通り、大手ゼネコンのうち関西が地盤の大林組と竹中工務店は、地元組の意地を見せ、それぞれ1工区ずつを落札した。在京組では、清水建設が受注した。入札に、最大手である鹿島や、在阪の準大手・中堅が主導する共同企業体(JV)の姿はなかった。注目プロジェクトの受注合戦にしては、メンツがあまりにも寂しいのはなぜなのか。

大阪・関西万博を巡っては、折からの資材高によって建設費が上振れする可能性が指摘されている。当初見積もった会場建設費は1250億円で、詳細なデザインが決まった後に1850億円まで引き上げられた。この建設費は20年に設定されたもので、足元の急速な円安、資源高はまったく考慮されていない。前出のゼネコン首脳は「(万博は)とても採算が合わない。ゼネコンのプライドを見せろということかもしれないけれど、そんな地獄を見る工事に誰が突っ込むか」と吐き捨てるように言った。

万博の建設工事が赤字必至の“地獄”であることは、主要会場3工区の入札結果を読み解くと、よりはっきり見えてくる。応札額が予定価格を超えるか、予定価格ギリギリなのである。赤字必至の工事であっても、大林組と竹中工務店は、地元の手ゼネコンとして、プライドを懸けて応札しないわけにはいかない。その苦しみを入札価格は如実に示している。竹中工務店が落札した「PW西工区」は、実のところ1回目の入札が不調に終わっている。1回目の入札後に辞退した清水建設JVを除き、いずれの応札者も予定価格(175億5708万円)を超過。2回目の入札で落札した竹中工務店JV(応札額175億5500万円)の落札率(予定価格に対する落札額の割合)は99.99%だった。

竹中工務店JVが応札した「PW南東工区」と「PW西工区」では、いずれも1回目の入札で予定価格を超過している。現状の資材高や工期を踏まえれば、博覧会協会側が示し予定価格では採算が厳しいことの表れだ。

(2022年9月30日)

どの工事も採算厳しい見込み		
大阪・関西万博建設工事の主な入札結果		
※赤字は原簿数の1/3を以て		
PW北東工区	予定価格	180億6437万円
応札社名	応札額	結果
大林組・大鉄工業・TSUCHIYA共同企業体	166億8000万円	落札 (92.34%)
PW南東工区	予定価格	198億0190万円
清水建設・東急建設・村本建設・青木あすなろ建設共同企業体	193億6000万円	落札 (97.77%)
大林組・大鉄工業・TSUCHIYA共同企業体	195億9000万円	
竹中工務店・南海辰村建設・竹中土木共同企業体	219億5000万円	予定価格超過
PW西工区	予定価格	175億5708万円
竹中工務店・南海辰村建設・竹中土木共同企業体	199億5300万円	予定価格超過
大林組・大鉄工業・TSUCHIYA共同企業体	188億円	予定価格超過
大成建設・ノバック共同企業体	247億3200万円	予定価格超過
戸田建設・西松建設・若田地崎建設共同企業体	253億5000万円	予定価格超過
清水建設・東急建設・村本建設・青木あすなろ建設共同企業体	166億3000万円	入札後辞退
入札不調、2回目へ		
竹中工務店・南海辰村建設・竹中土木共同企業体	175億5500万円	落札 (99.99%)
大林組・大鉄工業・TSUCHIYA共同企業体	188億円	予定価格超過
大成建設・ノバック共同企業体	247億円	予定価格超過
戸田建設・西松建設・若田地崎建設共同企業体		辞退

*ゼネコン関係者提供の内部資料を基にダイヤモンド編集部作成